

調印式を伝える 新聞記事

2016年(平成28年)2月3日(水曜日)

新 聞 記 事



調印後、握手する藤田自治会長(左)と平塚学長(右)。草津町の栗生楽泉園で。

群馬大と栗泉園
連携協定に調印
「偏見解消へ協力」
群馬大(平塚浩十学

長)と草津町の国立ハ
ンセン病療養所「栗生
楽泉園」、入所者自治
会が2日、包括事業連
携協定を結んだ。
群馬大は、医学部医

学科の5年生が30年以
上にわたって栗生楽泉
園を見学し、保健学科
看護学専攻の4年生も
インターンシップを实
施してきた。2014
年度からは社会情報学

部が入所者の証言を記
録・保存している。
今回の協定締結で、
ハンセン病に関する教
育・研究・啓発活動を
全学で充実させ、正し
い知識の普及と啓発に

取り組むという。入所
者自治会の藤田三四郎
会長は「いまだに残る
偏見の解消のため、群
馬大と協力できること
を幸いに思う」と話し
た。【高橋努】

ハンセン病正しい知識を

群大など連携 療養所実習など継続

群馬大と草津町の国立療
養所栗生楽泉園、同園入所
者自治会は2日、ハンセン
病に対する正しい知識の普
及などを目的に連携協定を
結んだ。

群馬大はこれまで、医学

科の5年生と保健学科看護
学専攻の4年生が同園でそ
れぞれ実習を実施。201
4年度からは社会情報学部
の学生が中心となり、入所
者の証言を聞き取るなどし
て、映像やガイドブックを
製作している。今回の協定
は、こうした活動を今後も
継続し、発展させていく狙
いがある。

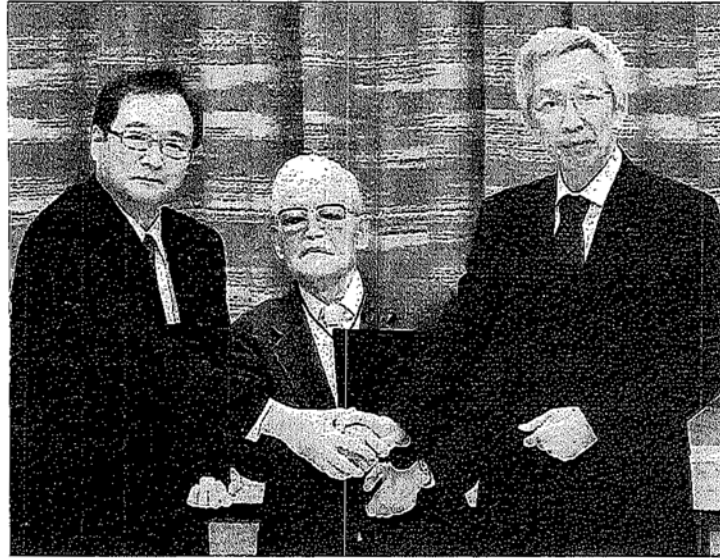
この日、同園で行われた
調印式で、群馬大の平塚浩
十学長は「地域の発展に貢
献することは私たちの使
命。3者の連携がますます
発展することを期待して
いる」とあいさつ。同自
治会の藤田三四郎会長は
「広く一般市民にハンセン
病を正しく理解してもらっ
たため、この尽力を願う」と
語った。



協定書に調印し、握手を
交わす平塚学長(右)、
藤田会長(中央)ら

ハンセン病知識普及で連携協定 群大と栗生楽泉園、自治会

ハンセン病に対する偏見や差別の解消、正しい知識の普及に向け、群馬大と草津町の国立療養所「栗生楽泉園」、入園者自治会の3者は2日、包括的事業連携協定を締結した。同大によると、神戸大大学院の一部研究科が邑久光明園（岡山県瀬戸内市）と同様の協定を結んでいるが、国立大が全学的にハンセン病療



協定書を手に握手する(左から)坂本園長、藤田会長、平塚学長

養所と協定を結ぶのは全国で初めて。群馬大と同園の交流は30年以上前から続き、医学部では医学科や保健学科の学生が園内で合宿やインターンシップを実施している。近年は、社会情報学部が学生が入園者から聞き取り調

査をして、ガイドマップやドキュメンタリー映画の制作に取り組んでいる。協定は群馬大のこうした活動を充実させる狙い。園側にも高齢化が進む入園者の証言を記録し、ハンセン病に対する正しい知識、歴史を若い世代に伝える利

点があるとする。

同日、楽泉園内で開かれた調印式で、群馬大の平塚浩士学長は「ハンセン病問題に関する研究、啓発活動を充実させ、楽泉園との関係をさらに発展させていきたい」、坂本浩之助園長は「ハンセン病や人権の問題について見識を深め、勉強の場にしてもらえば」とそれぞれ話した。

入園者自治会の藤田三郎会長は「次世代への継承が課題になっている。(協定締結は)正しい知識、理解の普及に役立つはずだ」と歓迎した。